

# 文部科学省学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	中種子町立野間小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	23
児童数	49	55	52	55	48	51	1	311	

研究の概要

## 1. 研究主題

**基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の開発**  
 ～個に応じた指導の在り方について～

## 2. 研究内容与方法

### (1) 実施学年・教科

- 1～6年国語（各学年の目標及び内容が、他教科・領域等との関連の深い教科であるため）
- 1～6年算数（学習内容が学年に応じた系統性があり、子供の理解度に差が出やすい教科であるため）

### (2) 年次ごとの計画

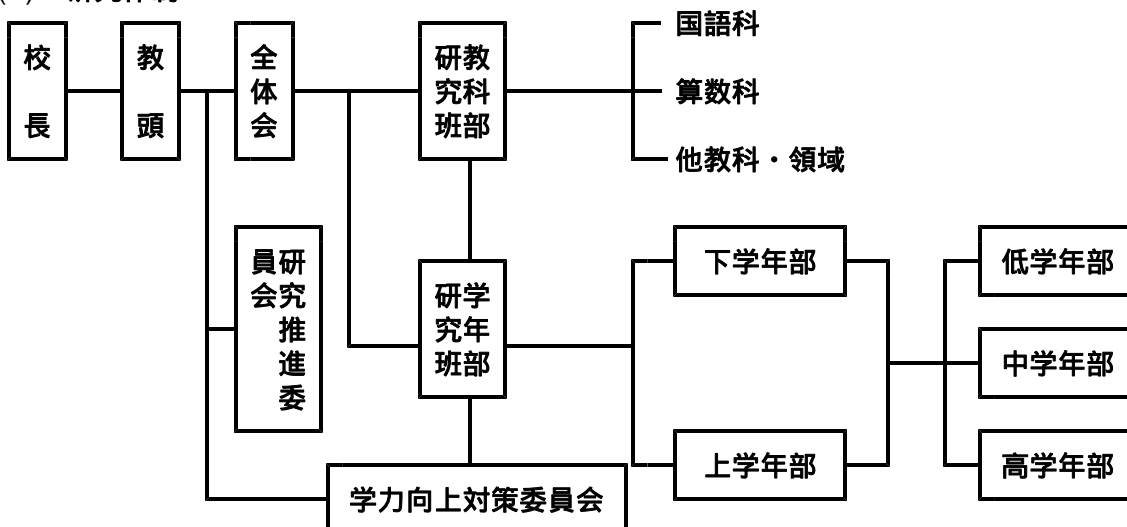
平成14年度	<p>テーマ                  「基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の開発～指導法の工夫・改善を通して～」                  研究の方向性                  国語科・算数科の研究実践を主とし、実践を踏まえた理論作りをする。                  研究の視点                  1：個に応じた指導のための教材開発をする。                  2：個に応じた指導のための指導法，指導体制の工夫・改善をする。                  3：評価についての研究を深め，指導と評価の一体化を目指す評価の工夫・改善を図る。                  研究の内容・方法                  視点1については，基礎・基本の確実な定着を図るための教材開発をする。方法については，学習意欲を高める教材開発，教材の利点や欠点等を記録し，さらに工夫・改善をする。                  視点2については，基礎・基本について共通理解をし，その定着を図るための個に応じた学習指導の在り方について明らかにする。方法については，目指す授業像設定，実態把握の工夫・改善，指導形態の工夫・改善を行う。                  視点3については，基礎・基本の確実な定着を図るための指導と評価の在り方について探る。方法については，評価規準についての共通理解，検討・作成，年間指導計画の見直し・作成，自己評価・相互評価の方法についての共通理解を図っていく。</p>
--------	---

平成	<p>テーマ                  「基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の開発～個に応じた指導の在り方について～」                  研究の方向性                  国語科，算数科を中心として，学習指導の工夫・改善を日常的に図る。（中間まとめの公開を行う。）                  研究の視点</p>
----	---

成 15 年 度	<p>1：個に応じた指導のための教材・教具の開発をする。 2：個に応じた指導のための学習活動の工夫・改善をする。 3：指導と評価の一体化の図れるような評価の工夫・改善を図る。</p> <p>研究の内容・方法 視点1については，一年次の教材開発の継続研究をする。方法については，学習内容に興味・関心をもったり，理解を深めたりするための教材開発，教具開発を行う。 視点2については，毎時の基礎的・基本的事項や指導形態，重点評価項目を盛り込んだ年間指導計画をもとに，習熟の程度や興味・関心に応じた指導など個に応じた指導方法の工夫・改善を図る。具体的には，教材や子供の理解に応じ，日常の授業の中で指導形態や指導方法の工夫・改善を図った授業実践を行う。 視点3については，指導と評価の一体化を図るための評価の見直しを行う。方法としては，重点評価項目を生かした指導と評価の一体化を図ったり，自己評価カードの活用，評価補助簿の工夫・改善を行い日常の授業実践に生かしたりできるようにする。</p>
-------------------	--

平 成 16 年 度	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の開発～個に応じた指導の充実と評価～」</p> <p>研究の方向性 国語科や算数科を中心に，個に応じた指導の充実を図り，研究のまとめを行う。（まとめの研究公開を行う）</p> <p>研究の視点 1：個に応じた学習活動の工夫・改善をする。 2：個に応じた指導に生かす評価の工夫・改善をする。</p> <p>研究の内容・方法 視点1については，1年次・2年次の実践をもとに，基礎・基本の定着を確実なものしながら確かな学力をはぐくむための学習指導の充実を図る。具体的には，一斉指導やT・Tによる指導（少人数指導も含む）のよさを生かした指導の充実，教科担任制の試行，理解や習熟の程度等に応じた補充・発展的学習の実践，家庭・地域・他校種との連携等を図る。 視点3については，「確かな学力」をはぐくむための個に応じた指導に生かすことができるような評価の工夫・改善を行う。方法としては，自己評価や相互評価の在り方とその具体策を明確にしたり，補充的・発展的な教材開発にもつながらるような評価方法の工夫・改善を行ったりする。さらにこれらの評価が，研究の成果及び課題のデータ化にもつながらるような累積の仕方を研究する。</p>
------------------------	---

(3) 研究体制



- ・ 教科部研究班・・・教科・領域の理論・実践研究，資料提供等  
教科部研究班内の分担は，各班で行う。
- ・ 学年部研究班・・・指導計画の具体的作成，資料教具の作成等
- ・ 学力向上対策委員会・・・「読み・書き・算」を中心とした授業外での取組について検討する。

平成15年度の成果及び課題（本年度は，現在分析中）

教研式観点別標準学力検査の国語・算数における領域別通過率の学年ごとの推移（平成14年度まで）

数字は全国通過率100に対する本校児童の通過率

本年度は，学習指導要領の領域または，学力の4観点から子供の実態を示してある。

ア 国語（現6年はTTや少人数による指導実施）

学年 領域	1年 (現2年)	2年 (現3年)	3年 (現4年)	4年 (現5年)	5年 (現6年)	6年 (現中1年)
関・意・態	100	101	96	93	99	100
話す・聞く	101	99	96	97	102	98
書くこと	104	105	97	99	106	100
読むこと	102	101	102	99	98	95
言語事項	102	104	104	102	100	96

【分析】

中学年の「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国平均を下回っている。

「読むこと」は学年が進むにつれて，通過率が低くなる傾向がある。

言語事項は，大体どの学年もほぼ全国通過率と同じである。

イ 算数（現3年生以上は，TTや少人数による指導を实践）

学年 領域	1年 (現2年)	2年 (現3年)	3年 (現4年)	4年 (現5年)	5年 (現6年)	6年 (現中1年)
関・意・態	105	99	102	94	100	97
数学的な考え方	89	111	104	139	100	100
表現・処理	100	104	105	99	105	96
知識・理解	102	110	106	98	104	98

【分析】

1年生の数学的な考え方が全国平均を下回っている。また，学年によるばらつきが大きい。

4年生の通過率が「数学的な考え方」を除いて全国より低い。

1. 研究の成果

教材・教具の開発についてのとらえ方や手順，留意点を明確にすることで，学習内容や子供の実態に応じた教師の教材・教具の開発及び活用能力が高まった。

子供の実態や単元・題材の目標や内容を踏まえた学習形態及び指導形態の工夫・改善を図ったことで，学習の幅が広がり，より深まりのある学習活動が展開できた。子供の学習意欲や見方・考え方も高まり，必要な知識や技能を習得できる子供が増えた。

事前に毎時の基礎・基本及び評価の重点を明確にすることで，授業のポイントが明らかになり，個に応じた指導がしやすくなった。また，重点評価項目を入れた評価補助簿の活用により，子供の目標に対する実現状況が把握しやすくなった。それにより，単元・題材の学習の中で子供の実現状況に応じた指導の手立てを取り入れることが可能になり，子供の主体的な学習につながった。

2. 今後の課題

三つの視点が個に応じた指導の授業構想に重要なことが明確になった。今後，子供の自己評価に基づいた補充・発展的な学習を進めるための教材等の開発や学習形態，指導方法の工夫・改善等を行う必要がある。

基礎・基本の確実な定着をより確実なものにしていくために，他教科との関連を図った授業，教科担任制の導入，他校種や地域・家庭との連携を図った取組も進めていきたい。

基礎・基本の定着がどのように高まったか，学力の4観点に即して客観的に分析し，さらに個に応じた指導の充実を図る必要がある。データ化した分析を基に，3年間のまとめを行いたい。

